日本建築史圖集

新訂第三版

日本建築學會編　彰國社刊

まえがき

日本建築学会が『日本建築史参考図集』を初めて編集・刊行したのは昭和5年であった。19年後の昭和24年，全面的に改訂し，書名も『日本建築史図集』と改め，さらに14年後の同38年に再び『改訂新版』を発行した。

その後17年を経て同55年，「日本建築史研究は著しく深められ」「修理によって新事実の明らかにされた古建築も一層増加した」ので，その「成果をできるだけ吸収」するために『新訂版』が刊行された。『改訂新版』『新訂版』ともに，図版の収集・配列と解説は稲垣栄三氏が担当された。

その後また年月が経過して研究は著しい進展を見せ，改訂を望む声が高くなった。日本建築学会建築歴史・意匠委員会はこの要望に応えて改訂のための検討委員会を設置し，種々検討を加えた。

全面的に作り直すのが望ましいという意見も多かったが，旧版の多くの貴重な資料を生かすことを考え，可能な範囲で内容の増補と修正を行うに止めた。本書の体裁が旧版の形式をほぼ踏襲しているのは以上の理由によるが，増補・修正部分が多く，全体としては様相がかなり変化することとなった。

改訂作業を担当したのは上野勝久，後藤治，渡辺勝彦，波多野純，小沢朝江，西和夫である。なお解説の一部について大野敏の協力を得た。

今後機会を得てさらに改訂が加えられ，内容が一新されることを期待したい。

2006年12月

日本建築学会　建築歴史・意匠委員会

新訂第三版にあたって

上記の「まえがき」に述べた通りこの「新訂第二版」は，1980年発行の「新訂第一版」を2007年に改訂したものだが，その際，できるだけ旧版を生かすという方針で作業が進められた。今回，さらに部分的な修正，新たな資料を加え新訂第三版として出版することとなった。日本建築史を学ぶ上に寄与することができれば幸いである。

2010年10月

日本建築学会　建築歴史・意匠委員会

目　次

古代◉遺跡
1. 縄文時代住居跡　愛媛県上黒岩岩陰遺跡，千葉県高根木戸遺跡
2. 縄文・弥生時代住居跡　岩手県御所野遺跡，富山県桜町遺跡，大分県安国寺遺跡
3. 弥生時代住居跡　静岡県登呂遺跡，高殿(たたら)の図
4. 古墳時代住居跡　高床家屋，静岡県登呂遺跡・長野県平出遺跡復原家屋，東京都中田遺跡
5. 埴輪・家屋文鏡　家形埴輪，家屋文鏡

古代◉神社 1
6. 神明造 1　伊勢神宮内宮大宮院，伊勢神宮内宮正殿・宝殿
7. 神明造 2　伊勢神宮外宮御饌殿・内宮正殿・内宮別宮荒祭宮正殿復原図・内宮内玉垣南御門前，仁科神明宮本殿
8. 大社造　出雲大社本殿，神魂神社本殿
9. 住吉造　住吉大社本殿，大嘗宮

古代◉寺院 1
10. 法隆寺 1　法隆寺伽藍・西院
11. 法隆寺 2　法隆寺金堂，玉虫厨子
12. 法隆寺 3　法隆寺金堂・中門・西院回廊
13. 法隆寺 4　法隆寺五重塔・舎利容器，法起寺三重塔
14. 古代寺院の配置　飛鳥寺，四天王寺，川原寺，法隆寺，薬師寺，興福寺
15. 古代寺院の僧房　東大寺伽藍配置，山田寺東回廊，元興寺僧房復原図，法隆寺東室・妻室復原図
16. 奈良時代の仏堂 1　唐招提寺金堂
17. 奈良時代の仏堂 2　東大寺法華堂，唐招提寺金堂
18. 奈良時代の塔　薬師寺東塔，海竜王寺五重小塔
19. 奈良時代の仏堂 3　法隆寺東院伝法堂，新薬師寺本堂
20. 奈良時代の仏教建築 1　法隆寺東院夢殿，栄山寺八角堂
21. 奈良時代の仏教建築 2　正倉院正倉，法隆寺経蔵・東大門・食堂・細殿

古代◉都市
22. 平城京・平安京　平城京，平安京，古代都市位置図，真々制・内法制
23. 平城京の建築　大極殿復原模型，平城宮，唐招提寺講堂，東朝集殿復原模型，復原朱雀門
24. 平安京の建築　平安京，朝堂院，絵巻物の大極殿・清涼殿
25. 内裏　京都御所紫宸殿・清涼殿

古代◉住宅
26. 奈良時代の住宅　法隆寺伝法堂，斑鳩宮跡，長屋王邸跡，平城京左京三条二坊六坪遺跡
27. 平安時代の住宅 1　東三条殿，藤原定家邸，平安京右京六条一坊五町遺跡
28. 平安時代の住宅 2　類聚雑要抄の図，絵巻物の寝殿造

古代◉神社 2
29. 春日造　春日大社社殿・本殿，円成寺春日堂・白山堂
30. 流造　賀茂別雷神社本殿・権殿，賀茂御祖神社本殿，宇治上神社本殿
31. 八幡造・日吉造　宇佐神宮本殿，日吉大社東本宮本殿，八坂神社本殿

古代◉寺院 2
32. 平安初期の寺院 1　教王護国寺金堂・五重塔・灌頂院，絵巻物の真言院道場
33. 平安初期の寺院 2　根来寺大塔，金剛峯寺伽藍，延暦寺根本中堂・常行堂・法華堂，宝塔の図
34. 平安時代の建築 1　室生寺五重塔・金堂，醍醐寺五重塔
35. 平安時代の建築 2　法隆寺大講堂，醍醐寺薬師堂，三仏寺投入堂
36. 阿弥陀堂 1　平等院鳳凰堂
37. 浄土教の寺院 1　法成寺伽藍，法勝寺伽藍，尊勝寺阿弥陀堂，蓮華王院本堂
38. 阿弥陀堂 2　浄瑠璃寺本堂，中尊寺金色堂，法界寺阿弥陀堂
39. 浄土教の寺院 2　毛越寺，金剛峯寺不動堂，永福寺伽藍，最勝光院指図
40. 平安後期の寺社　石山寺本堂，熊野本宮大社，熊野那智大社，鶴林寺太子堂
41. 平安後期の寺院　當麻寺本堂(曼荼羅堂)，金剛峯寺金堂指図

中世◉寺院
42. 大仏様　浄土寺浄土堂
43. 東大寺の大仏様　東大寺南大門・法華堂礼堂・開山堂，絵巻物の東大寺大仏殿
44. 初期の禅宗様　東大寺鐘楼，建長寺指図，東福寺三門
45. 禅宗様仏殿　円覚寺舎利殿，永保寺開山堂，不動院金堂
46. 禅宗の建築（仏殿以外）　東福寺伽藍・禅堂・東司・浴室，安楽寺八角三重塔
47. 禅宗の建築（境内と塔頭）　長福禅寺絵図，龍吟庵方丈，大仙院本堂，黄梅院庫裏
48. 奈良の和様（興福寺系）　興福寺北円堂・三重塔，法隆寺聖霊院，薬師寺東院堂，霊山寺本堂
49. 奈良の和様（新和様）　元興寺極楽坊本堂・禅室，唐招提寺鼓楼，長弓寺本堂
50. 中世仏堂 1　長寿寺本堂，西明寺本堂，大報恩寺本堂
51. 中世仏堂 2　大善寺本堂，明王院本堂，鑁阿寺本堂
52. 鎌倉新仏教の本堂　照蓮寺本堂，知恩院勢至堂，本蓮寺本堂，西郷寺本堂
53. 境内・その他　東妙寺・妙法寺境内絵図，十輪院本堂，石山寺多宝塔，西明寺三重塔，教王護国寺北大門・大師堂，法隆寺子院，清水寺馬駐

中世◉神社
54. 本殿　窪八幡神社本殿，御上神社本殿，園城寺新羅善神堂，多治速比売神社本殿，中山神社本殿，住吉神社本殿，山田大王神社本殿，玉陵
55. 本殿・複合社殿　厳島神社社殿，絵巻物の三島大社，吉備津神社社殿
56. 拝殿他　波宇志別神社神楽殿，熊野神社長床，油日神社楼門・回廊，宇治上神社拝殿，石上神宮摂社出雲建雄神社拝殿，土佐神社拝殿・幣殿，園比屋武御嶽石門

中世◉寺社
57. 厨子・宮殿　観福寺，本山寺(香川)，法用寺，大法寺，鶴林寺，本山寺(岡山)，宝珠院，八幡神社(鹿児島)

中世◉住宅
58. 鎌倉時代の武家住宅　絵巻物の武家住宅，大阪府堺市日置荘の城館跡
59. 室町時代の武家住宅　洛中洛外図屏風の武家住宅，足利義教邸(室町殿)の指図，『匠明』の指図，一乗谷朝倉氏館模式図，江馬下館跡復元図
60. 寺社家・公家の住宅　佐々目遺身院指図，仏地院主殿指図，法身院指図，三条白川房復元指図，仁和寺常瑜伽院指図，応永度内裏指図，絵巻物の公家住宅
61. 北山殿・東山殿　鹿苑寺金閣，慈照寺銀閣・東求堂，東山殿会所復元図
62. 座敷飾　絵巻物の押板・棚・付書院，『御飾書』の座敷飾
63. 住宅付属施設・設備　絵巻物の台所・納戸・厩・湯屋・風呂・便所，北条小町邸の便所
64. 町家　絵巻物の町家，洛中洛外図屏風の町家，一乗谷の町家復元図，本屋敷遺跡の町並
65. 農家　古井家住宅，箱木家住宅，堀家住宅復元図，絵巻物の猟師の家，横江遺跡の集落

近世◉城郭
66. 城郭 1　聚楽第図，丸岡城天守，大坂城本丸指図，松本城天守，岡山城天守
67. 城郭 2　彦根城天守，松江城天守，名古屋城天守，犬山城天守，熊本城宇土櫓，仙台城大手門，首里城正殿(復原)
68. 城郭 3　姫路城大天守・小天守・渡櫓・配置図

近世◉住宅 1
69. 城郭の御殿 1　江戸城本丸・大広間・縄張図・天守建方之図，聚楽第大広間平面図
70. 城郭の御殿 2　江戸城障壁画・本丸玄関・遠侍・本丸大広間
71. 城郭の御殿 3　二条城二の丸御殿
72. 寺院の御殿 1　勧学院客殿，光浄院客殿
73. 寺院の御殿 2　本願寺書院・北能舞台，知恩院大方丈
74. 江戸の大名屋敷　江戸図屏風の大名屋敷，江戸紀州藩邸図，鍋島家江戸上屋敷櫓門
75. 江戸の大名・旗本屋敷　江戸図屏風の加賀藩前田家下屋敷，旧加賀屋敷御守殿門，旧因州池田屋敷表門，旧柳沢邸之図，津山藩御上屋敷表御殿向惣絵図，旗本上ヶ屋敷図，大名表門・大名長屋門造の図
76. 地方城下町の大名・武家屋敷　川越城本丸御殿，旧黒澤家住宅，旧塩見家住宅，旧黒水家住宅，旧目加田家住宅，知覧武家屋敷群
77. 地方城下町の武家屋敷　旧厚狭毛利家萩屋敷長屋，旧口羽家住宅表門，旧新発田藩足軽長屋

近世◉神社・霊廟
78. 権現造・霊廟　大崎八幡神社社殿，宝厳寺唐門，図屏風の豊国廟
79. 日光東照宮 1　日光東照宮本殿・石の間・配置図
80. 日光東照宮 2　日光東照宮拝殿・陽明門・唐門，輪王寺大猷院霊廟本殿，台徳院霊廟宝塔，日吉大社末社東照宮

近世◉寺社
81. 近世初期の寺社　金峯山寺本堂，妙法院庫裏，瑞巌寺本堂・庫裏，吉野水分神社本殿
82. 江戸時代の仏堂　東大寺大仏殿，清水寺本堂，善光寺本堂，瑞龍寺仏殿・法堂
83. 黄檗宗の建築　崇福寺第一峰門・大雄宝殿，萬福寺配置図・大雄宝殿・松隠堂開山堂
84. 近世の寺社と地方性 1　歓喜院貴惣門・聖天堂奥殿，法華経寺祖師堂，勝興寺本堂，妙義神社，旧正宗寺三匝堂
85. 近世の寺社と地方性 2　赤神神社五社堂，大滝神社本殿・拝殿，國前寺本堂，玉若酢命神社，霧島神宮，権現堂神殿

近世◉住宅 2
86. 茶室と露地 1　妙喜庵茶室待庵，裏千家茶室又隠，如庵
87. 茶室と露地 2　孤篷庵忘筌，藪内家茶室燕庵・露地
88. 数寄屋 1　桂離宮御殿群・古書院・中書院・新御殿
89. 数寄屋 2　桂離宮松琴亭・月波楼・笑意軒・配置図
90. 数寄屋 3　曼殊院書院，本願寺黒書院・飛雲閣
91. 数寄屋 4　三溪園臨春閣・聴秋閣，成巽閣

近世◉都市
92. 城下町と町家 1　絵図・図屏風の町家
93. 城下町と町家 2　旧生方家住宅，高橋家住宅，菊屋家住宅，喜多家住宅，小坂家住宅，江戸の裏長屋と都市施設
94. 様々な施設 1　錦帯橋，絵図の火の見櫓，旧下ヨイチ運上家，旧関谷学校講堂，多久聖廟，萩藩御船蔵
95. 様々な施設 2　旧金毘羅大芝居，砂糖しめ小屋，両国橋西詰広小路復原模型，絵図の御茶の水掛樋，兼六園の噴水，出島図

近世◉住宅 3
96. 民家と集落 1　旧菊池家住宅，旧奈良家住宅，旧渋谷家住宅，田麦俣の兜造，旧佐藤家住宅
97. 民家と集落 2　旧北村家住宅，旧作田家住宅，香取市佐原伝統的建造物群保存地区，江川家住宅
98. 民家と集落 3　渡辺家住宅，旧笹川家住宅，旧山田家住宅，堀内家住宅，佐渡市宿根木伝統的建造物群保存地区
99. 民家と集落 4　南木曽町妻籠宿保存地区，旧三沢家住宅，白川村荻町伝統的建造物群保存地区，旧大戸家住宅，吉島家住宅
100. 民家と集落 5　原時国家住宅，大角家住宅，坪川家住宅，南丹市美山町北伝統的建造物群保存地区，石田家住宅
101. 民家と集落 6　五條の町家，今井町，今西家住宅，吉村家住宅
102. 民家と集落 7　旧木原家住宅，国森家住宅，田中家住宅，美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
103. 民家と集落 8　旧川打家住宅，那須家住宅，中村家住宅，竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区

全体◉細部意匠
104. 細部（基礎）　掘立柱，版築，基壇，亀腹，礎石・心礎
105. 細部（軸部）　東大寺回廊・慈照寺東求堂軸部分解図
106. 細部（組物 1）　和様組物
107. 細部（組物 2）　三手先の変遷，禅宗様組物
108. 細部（軒）　軒の変遷，扇垂木，疎垂木・吹寄垂木，大仏様軒，三軒，出桁
109. 細部（中備・蟇股・手挟）　中備，蟇股，手挟，向拝細部
110. 細部（虹梁・木鼻）　虹梁，木鼻
111. 細部（屋根・妻飾）　屋根と瓦，妻飾
112. 細部（扉・建具）　板扉，蔀戸，桟唐戸，舞良戸，明障子
113. 細部（欄間・障子・仏壇）　欄間，障子，和様仏壇，禅宗様仏壇

全体◉建築技術
114. 中世の工匠・工具 1　絵巻物の建築工事・工具
115. 中世の工匠・工具 2　絵巻物の建築工事・工具
116. 近世の工匠・工具　工具，大工道具，絵巻物の工匠，上棟式
117. 近世の図面・模型　丁場割，指図，建地割，軸組模型，雛形，起こし絵図
118. 『匠明』の木割　堂記集，殿屋集

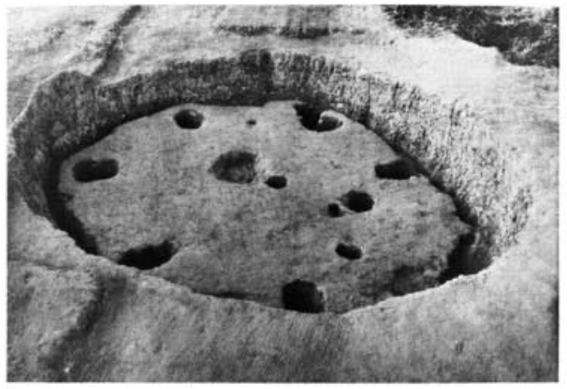
119. 図版解説

194. 建築索引

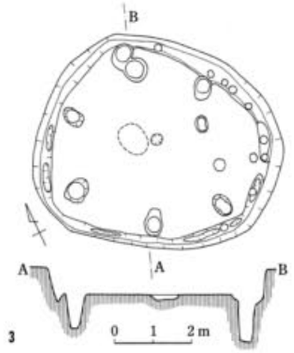
197. 建築用語索引

200. 図版出典リスト

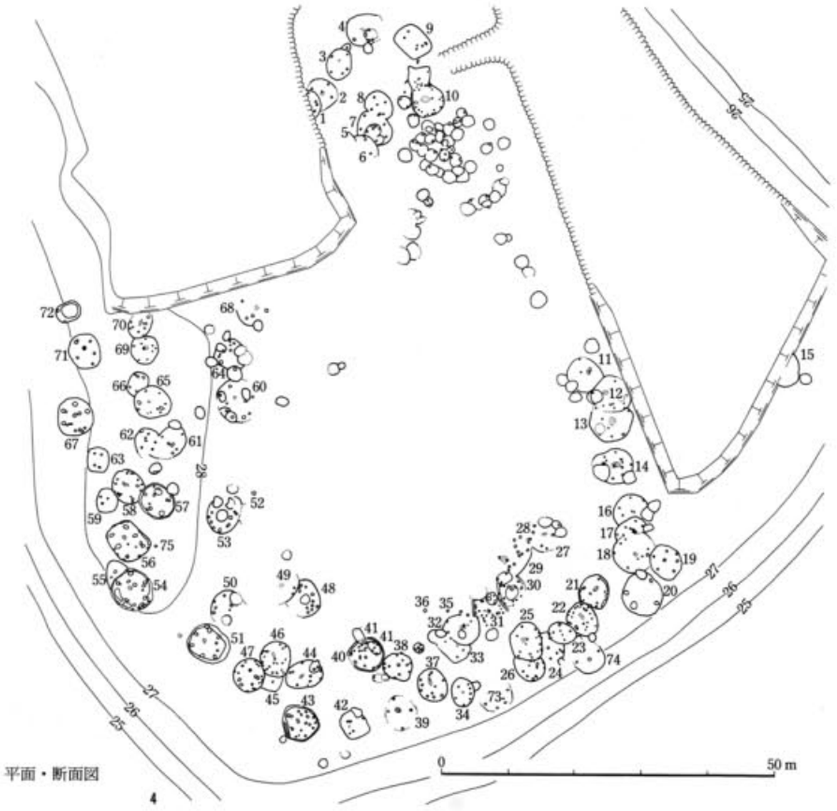
1



2

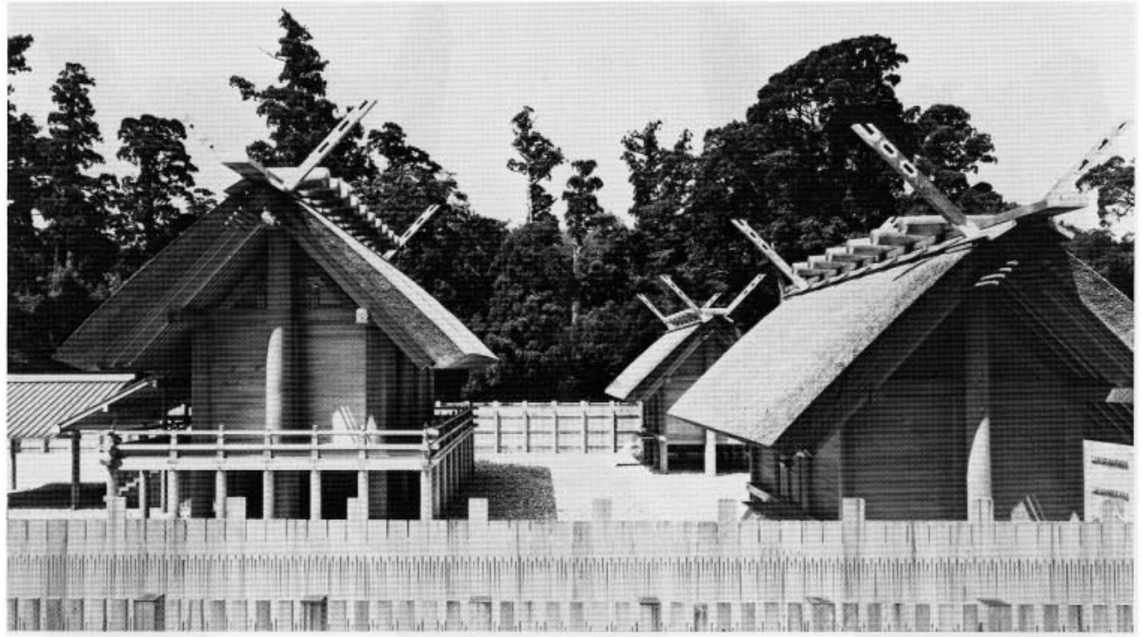


3

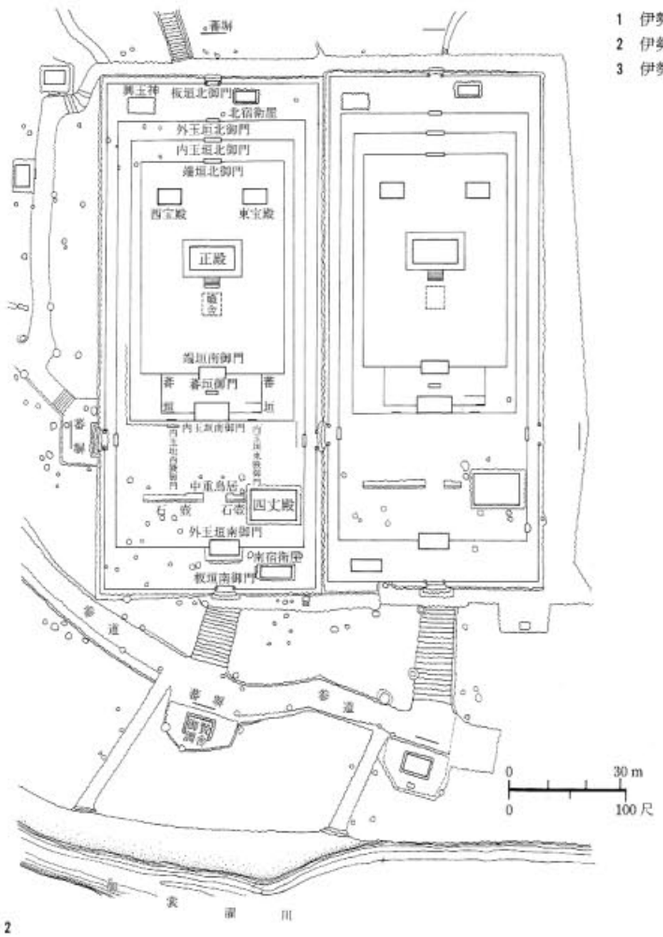


4

1 愛媛県上黒岩岩陰遺跡　全景
2 千葉県高根木戸遺跡　第 51 号住居跡
3 千葉県高根木戸遺跡　第 51 号住居跡　平面・断面図
4 千葉県高根木戸遺跡　住居跡分布図

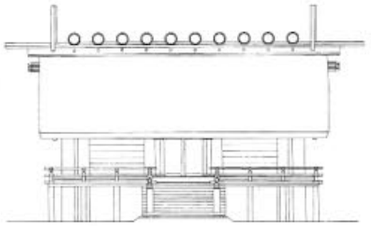


1



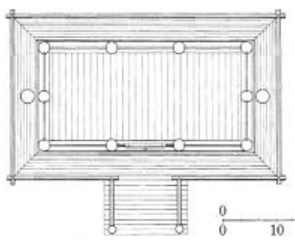
2

1 伊勢神宮　内宮正殿・宝殿　全景
2 伊勢神宮　内宮大宮院　配置図
3 伊勢神宮　内宮正殿　立面図
4 伊勢神宮　内宮正殿　立面図
5 伊勢神宮　内宮正殿　平面図

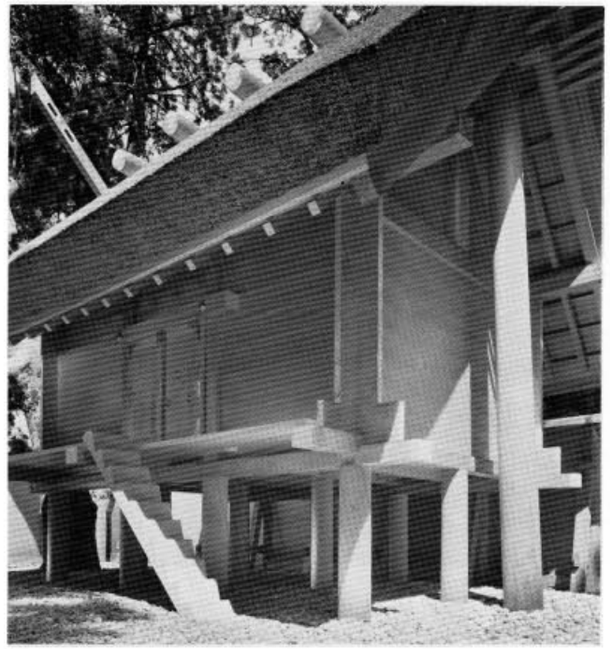


3

4



5



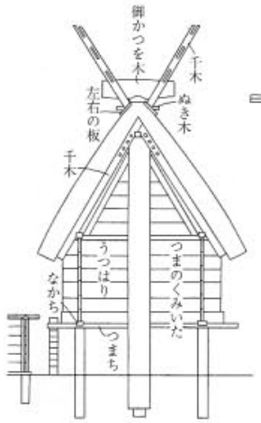
1

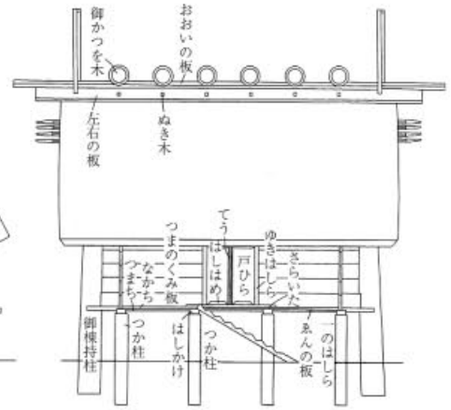
2

1 伊勢神宮　外宮御饌殿　全景
2 伊勢神宮　内宮正殿　細部
3 伊勢神宮　内宮内玉垣南御門前の広場
4 伊勢神宮　内宮別宮荒祭宮正殿　復原平面・立面図（福原敏男復原）
5 仁科神明宮本殿　全景

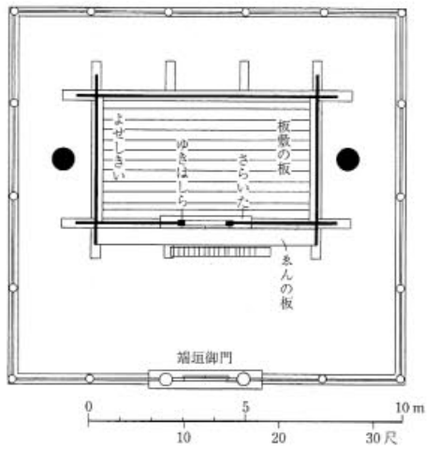
3

5



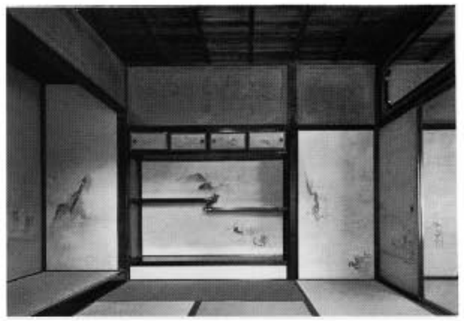


4



1

2

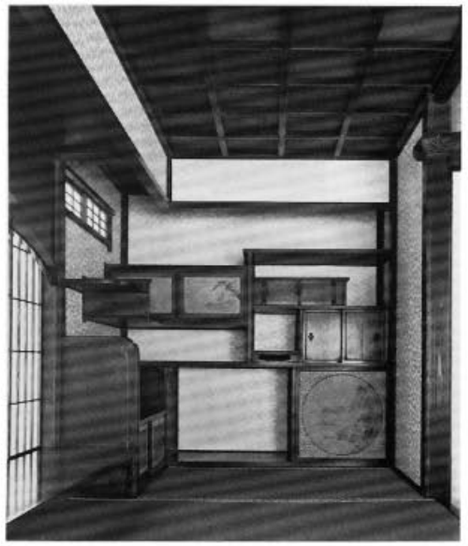


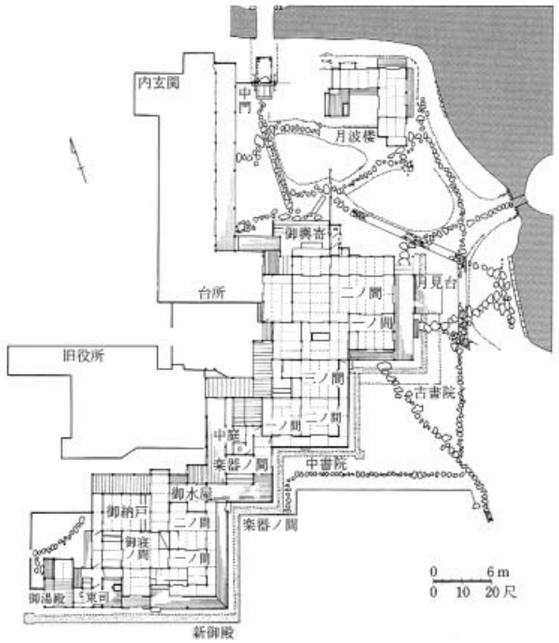
3

4

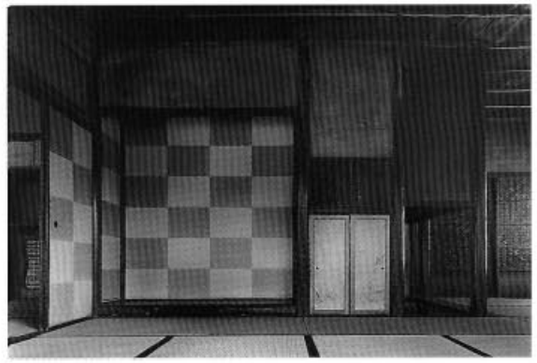
1 桂離宮　御殿群全景
2 桂離宮　古書院御奥寄
3 桂離宮　中書院一ノ間
4 桂離宮　新御殿広縁
5 桂離宮　新御殿一ノ間上段
6 桂離宮　御殿群　平面図

5

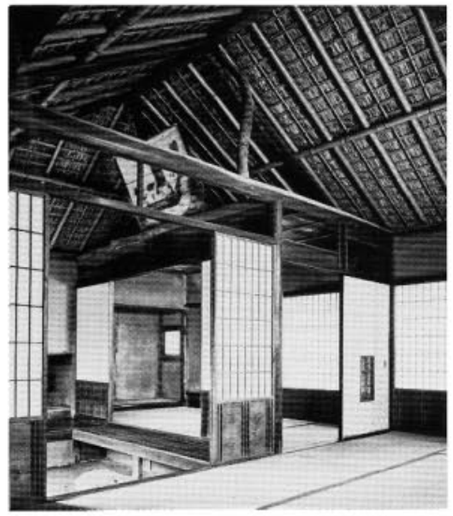




6



1

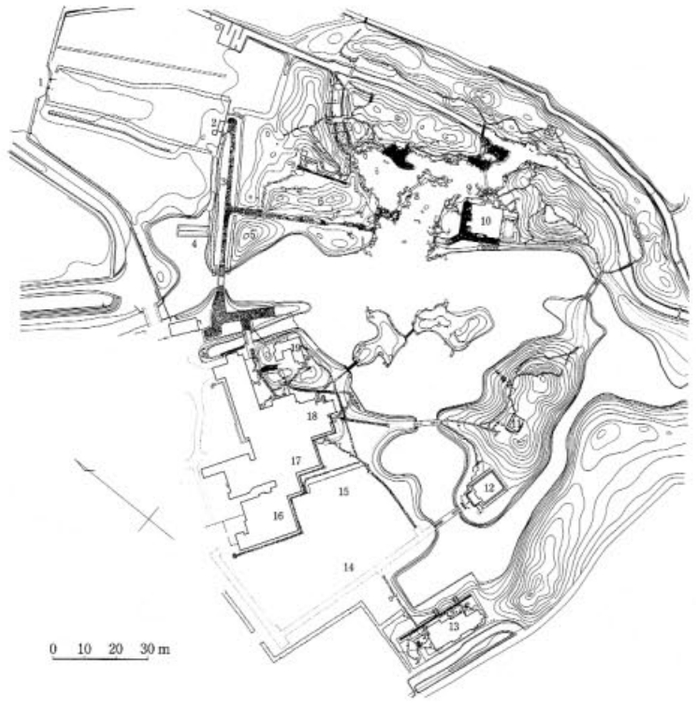


3

2

4

1 桂離宮　松琴亭　内部
2 桂離宮　松琴亭
3 桂離宮　月波楼　内部
4 桂離宮　笑意軒
5 桂離宮　配置図



1 表門
2 御幸門
3 御幸通
4 御舟屋
5 紅葉山
6 蘇鉄山
7 外腰掛
8 天の橋立
9 石橋
10 松琴亭
11 賞花亭
12 園林堂
13 笑意軒
14 梅の馬場
15 旧鞠場
16 新御殿
17 中書院
18 古書院
19 月波楼

5

本殿は，寛政5年（1793）の造替になる。隠岐造と呼ばれる，この島独特の形式で，切妻造妻入，茅葺の3間四方の身舎の正面に，板葺3間の向拝を付ける。

85—5

霧島神宮（鹿児島県霧島市）

正面から見ると，入母屋造，向唐破風付きの勅使殿があり，その奥の高台に入母屋造，千鳥破風付きの拝殿，さらに入母屋造の本殿がある。この斜面を利用した巧みな配置により，複数の屋根が重なり合う重厚な景観をつくり出している。

本殿は，薩摩藩主島津吉貴によって，正徳5年（1715）に造営された。入母屋造，銅板葺の屋根に，置千木，置堅魚木をのせる。前面1間の梁間を9尺に広げ前室とし，次の2間（1間＝6尺3寸）を内陣とする。身舎の板壁に花鳥風月の絵を描き，組物には極彩色を施し，八角形の向拝柱を龍の巻柱とするなど，豊かな彫刻と彩色に飾られた豪華な本殿である。勅使殿・拝殿はともに，18世紀末の建築。

85—6

権現堂神殿（沖縄県石垣市）

石垣島は，琉球王朝の八重山支配の拠点であった。権現堂は慶長19年（1614）に創立されたが，明和8年（1771）の大津波で大破し，天明6年（1786）に再建された。神殿は三間社流造で，沖縄独特の赤瓦を葺く。肘木の下端が直線となる，高欄の下に板壁を設けるなど，地域的特色を示す。

・修理報告書，1985

86〜87

茶室と露地

茶の湯は，中世の茶寄合から発生したとされ，14世紀には茶を飲み比べて産地を当てる「闘茶」と呼ばれる一種の遊興であった。しかし，次第に茶を点てて飲むという行為そのものが芸能として確立し，村田珠光・武野紹鷗を経て，16世紀半ばに千利休によって大成された。こうした茶会の場には，当初広間が用いられたが，珠光の時代には六畳，紹鷗の時代には四畳半が主流となり，四畳半は隠遁者の庵を意味する「方丈」（1丈×1丈）を踏襲する空間と理解され，茶室の定型として定着した。さらに利休は，亭主と客が心を交わらせて座をつくるという「一座建立」の精神に基づき，より極小化を指向した。このため，四畳半未満の広さの茶室は，とくに「小間」と呼んで区別する。同時に利休は，都市のなかにあっても俗世を離れた山里の風情を宿す「市中の山居」を理想に，下地窓や切入りの土壁，煤竹の使用など侘びた意匠を多用する草庵茶室を完成した。

露地は，茶室に付属する庭を指し，茶室と外界を繋ぐ役割をもつ。草庵茶室同様，山里の景観を理想とし，飛石や植栽，腰掛，門などが工夫され，茶室と合わせて脱俗の空間が形成された。

・中村昌生『茶室の研究』1971
・村井康彦『千利休』1977
・熊倉功夫『茶の湯の歴史』1990
・堀口捨己『利休の茶室』1968

86—1，2，4

妙喜庵茶室待庵（京都市乙訓郡大山崎町）

現存する茶室のうちで利休の茶室として確証のあるものはないが，待庵は江戸時代初期から利休の茶室として伝えられ，天正10年（1582）ごろに造立されたと推測される。

2畳隅炉で，そのわきに襖を隔てて次の間1畳がある。床を塗回しの室床とし，壁には大きな切を入れ，天井を棹縁天井と化粧屋根裏とに分けている。部分的には後世の変更を受けたところもあるが，全体として古い形態をよくとどめており，とくに天井，窓，床の取扱いはほかに例のない巧みな構成を示している。現存する草庵茶室として最古の，そしておそらく利休の好みの現れている茶室として唯一のものである。

・堀口捨己『利休の茶室』1968
・中村昌生「妙喜庵待庵」（資料集成20，1974）

86—3，5

裏千家茶室又隠（京都市上京区）

千利休は，二畳の茶室とともに四畳半茶室を数多くつくった。武野紹鷗の四畳半を出発点として徐々に意匠の草庵化を進め，利休の聚楽屋敷における四畳半に至って完成の域に達した。

利休の四畳半茶室は一つも現存しないが，孫の千宗旦は利休の意匠を忠実に写した四畳半を建てた。裏千家にある又隠がそれであるが，現在の又隠は天明8年（1788）火災焼失後の再建である。細部や寸法は少しずつ利休時代と異なるが，間取りや開口部などはおおむね利休四畳半の再現といえる。

・堀口捨己『利休の茶室』1968

86—6〜8

如庵（愛知県犬山市御門先）

如庵はもと建仁寺内に織田有楽斎が再興した正伝院の茶室であって，元和3年（1617）ころの建立と考えられている。明治以後この茶室は東京の三井家邸内，ついで三井家の大磯別荘内に移されたが，1970年犬山城下の現在地に移建された。2畳半大目の席で，床脇に三角の地板を入れ，中柱を特別な位置に立て，点前畳を中心とする炉脇を広くする。開口部を多く取るのは有楽斎の特徴で，大小五つの窓に躙口，反古紙の腰張りなどが絶妙のバランスで配されている。

・堀口捨己「織田有楽の茶室如庵」（『茶室研究』1969）
・修理報告書，1973
・中村昌生「如庵」（資料集成20，1974）

87—1，2

孤篷庵忘筌（京都市北区大徳寺町）

利休の没後，茶の湯が大名によって継承されるようになり，茶室も草庵風から書院風へと変わり，茶室としての機能を広い座敷のなかで生かすよう工夫するようになった。このような書院茶室の完成例として孤篷庵忘筌があげられる。

孤篷庵は寛永年間（1624〜1644）小堀遠州によって建てられた塔頭で，寛政5年（1793）焼失したが，その後直ちに復興した。現在の建物は旧規をかなり忠実に伝えている。忘筌は西面した不規則な形の12畳の部屋で，角柱を用い，長押を打ち，張付壁とした端正な書院風の部屋である。その縁先には特殊な工夫が施されており，中敷居をわたして上に障子を入れ，その下は躙口と同じ役割をもたせると同時に，内露地の景観を室内から眺められるよう開放している。

・修理報告書，1965
・堀口捨己「遠州好み密庵席と孤篷庵」（『茶室研究』1969）
・中村昌生「孤篷庵忘筌，山雲床」（資料集成20，1974）

87—3〜7

藪内家茶室燕庵・露地（京都市下京区）

古田織部は，元和元年（1615）ころ藪内家初代の剣仲紹智に茶室を譲ったとされ，さらに2代真翁は寛永17年（1640）西本願寺の茶道師家に迎えられて現在地に居を移した。この織部の茶室が燕庵であり，現在の藪内家の露地や建物の配置は織部の好みを伝えている。

茶室燕庵の平面は織部好みの代表的な形式であって，これと同じ間取りの茶室を，織部は自邸をはじめとしていくつも建てた。三畳大目に相伴席を付け，躙口の前に土間庇を設ける。相伴席は貴人を招いたとき，ここの畳を取り去り円座を敷いて相伴者の席とし，三畳を上段に見立てるという工夫であった。貴人席と相伴席とを分離するという考えは腰掛にもみられる。

露地は，猿戸を境として内露地と外露地に分かれる。中潜りから茶室に至る道筋を飛石あるいは延段で導き，その間に灯籠，砂雪隠，井戸，蹲踞などを配する。これら露地および茶室を構成するすべての要素について，織部は視覚的な興趣を呼ぶことを意図していた。

・中村昌生『茶室の研究』1971
・堀口捨己『庭と空間構成の伝統』1977

88〜91

数寄屋

「数寄」とは，本来一事に執着するさまをいい，転じて16世紀には一道，とくに茶の湯を含む芸能を指した。したがって数寄屋は，茶の湯など遊興に用いる建物を意味し，上流階級では対面所や広間などの儀式空間とは別に，奥向や別荘に設けられた。

数寄屋造は，風流の場やくつろぎの場にふさわしい建築様式として，書院造を軽妙に崩したものである。書院造が角柱に長押を打ち，壁や襖を白漆喰や金碧障壁画で覆うのに対し，面皮柱の使用，長押の省略，土壁・色壁の使用などの特徴をもち，建具や金具，座敷飾などに趣向を凝らす。ただし，数寄屋造の定義には諸説あり，草庵風書院・綺麗座敷などの概念も提示されている。

・北野隆『江戸時代前期における数寄屋風書院の成立に関する研究』1979
・後藤久太郎「曼殊院と公家の数寄屋風書院」（『日本古寺美術全集9』1981）
・斎藤英俊「桂離宮の建築様式の系譜」（『桂離宮』1982）

88—1〜6，89—1〜5

桂離宮（京都市西京区桂御園）

桂離宮は，桂川のほとりに八条宮の別荘としてつくられ，古書院・中書院・新御殿の御殿群と，月波楼・松琴亭・笑意軒・賞花亭の各御茶屋，持仏堂である園林堂等からなる。数寄屋建築としてのみならず，庭園の完成度も，また建築と庭園との調和という観点でも，すぐれた作品の一つといえる。56,000 m² の敷地に築山が築かれ，池が掘られ，御殿群が池に臨んで雁行型に配される。庭には変化に富む苑路がめぐらされ，趣向を凝らした橋，手水鉢，石灯籠などが点在する。

この別荘が営まれた背景には，江戸初期の貴族を中心とした王朝文化の復興という気運がある。とくに後水尾上皇を中心とする宮廷では，さまざまの文芸，遊芸が盛んに行われ，貴族社会全体に王朝の風雅な遊びが浸透した。別荘はそのような遊興の場としてつくられると同時に，別荘の造形自体が王朝文化を反映するものでもあった。

昭和51年から57年（1976〜1982）にかけて御殿群が解体修理され，その結果以下の3度の造営によって成立したことが明らかとなった。初めの造営は，初代智仁親王により元和元年（1615）ころ行われ，古書院はこのときつくられた。なお「仮の庵」以上に出なかったようだが，本格的な造営が2代智忠親王によって，源氏物語の面影を写すという意図のもとに進められ，寛永18年（1641）には中書院がつくられ，続いて正保・慶安（1644〜1652）ごろには別荘としての形がほぼ完成した。新御殿は寛文3年（1663）の後水尾上皇御幸を迎えるために造営されたものである。ただし，御茶屋を含め，造営年次やその背景についてはなお諸説がある。

古書院・中書院・新御殿はそれぞれ意匠が異なる。古書院は端正な書院造風の意匠であるが，中書院では面皮柱を用いており，新御殿は棚・書院・欄間・長押をはじめ，釘隠や襖引手などに技巧を凝らした軽妙な数寄屋造の建築である。

松琴亭は池を隔てて古書院に相対して建つ。入母屋造・茅葺の屋根をのせ，正面に深い土庇を設けて，くど，炉，棚，水屋をつくる。一の間の床は壁や襖に白と藍の加賀奉書を石畳模様に貼る斬新な意匠である。月波楼も3室からなる茶屋であるが，柿葺，化粧屋根裏のきわめて開放的な空間である。一方，笑意軒は敷地南端に位置し，茅葺寄棟屋根や深い土庇など農家風の外観をもつ。この立地は，敷地外の稲田を眺めることを意図したもので，意匠や好みから松琴亭などより時期が下がるとみられる。このような庭のなかの茶屋は，茶会のためばかりでなく，休憩や見晴らしのためにつくられており，格式を無視した自由な造形が駆使されている。

・堀口捨己『桂離宮』1952
・森 蘊『桂離宮の研究』1955
・和辻哲郎『桂離宮』1958
・久恒秀治『桂御所』1962
・藤岡通夫・佐藤 理・斎藤英俊『桂離宮』1982
・斎藤英俊『名宝日本の美術21　桂離宮』1982
・宮内庁『桂離宮御殿整備記録』1986
・宮内庁『桂離宮茶室等整備記録』1992